

第6学年



学びの 카테고리 「まちづくり」

第5学年では、学校生活の身近な暮らしにある「人・もの・こと」に繰り返し関わりながら、探究的活動に取り組んできた。第6学年ではカテゴリーを「まちづくり」とし、対象の範囲を地域に広げて探究的活動に取り組む。その過程において、子供は、学校からさらに外にある地域に関わる人・自然・文化へと認識を広げ、地域の人々の幸せを考えたまちづくりに向けて、自分にできることは何かを考え、行動していく。

宮下 和弥
高木 俊裕
葛西 希美

第6学年2組 年間指導計画「学びのカテゴリー」：まちづくり（全105時間）

第6学年の目標	(1) 問題解決力に関わって まちやそこに住む人との関わりを通して出会った問いをもとに、自分や仲間、そこで暮らす人が幸せに生きるために自分にできることを考え、やり切ることができるようにする。																
	(2) 関係構築力に関わって 自分や仲間、そこで暮らす人の幸せのために行う様々な活動を通して、自分の考えと仲間やまちの人の考えを比較し、相違点を受け入れ、様々な考えを踏まえた上で、よりよい考えを生み出すことができるようにする。																
	(3) 貢献する人間性に関わって 社会の様々な事柄について課題意識をもち、解決しようとする活動を通して、自分が行動したことが相手の幸せやよりよい社会につながっていることを実感し、行動しようとする態度を養う。																
カテゴリー設定の理由	第5学年では、学校生活の身近な暮らしにある「人・もの・こと」に繰り返し関わりながら、探究的活動に取り組んできた。第6学年ではカテゴリーを「まちづくり」とし、対象の範囲を地域に広げて探究的活動に取り組む。その過程において、子供は、学校からさらに外にある地域に関わる人・自然・文化へと認識を広げ、地域の人々の幸せを考えたまちづくりに向けて、自分にできることは何かを考え、行動していく。																
学びの基盤となる道徳的諸価値	○勤労、公共の精神 ・善悪の判断、自律、自由と責任 ・親切、思いやり・勤労、公共の精神 ・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・自然愛護・相互理解、寛容 ・希望と勇気、努力と強い意志 ・友情、信頼																
学びを構成する要素	まち 市民 政治 法 環境 自然 交通 人口 建物 歴史 文化 活気 魅力 生き方 成長 目標																
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
単元名(時数)	「まちってどんなところ？」 「住みやすいまちってどんなまち？」 (35時間)					「住みやすいまちに向けたプロジェクトを計画・提案・実行」 (45時間)					「自分の将来を見つめる」 (25時間)						
主な学習活動	<p>○「まちとは何か」について考える。</p> <p>○「まちづくりとは何か」について考える。</p> <p>○「どんなまちに住みたいのか」「どんなまちが住みやすいまちなのか」(理想のまち)を考える。</p> <p>○実際に自分が住んでいるまち、加納のまちが自分が考えた「住みやすいまち」になっているのかを考える。</p> <p>○周辺の「加納のまち」の実態をまち探検を通して捉え、加納のまちを「住みやすいまち」にしたいために、どう行動すればいいのかを仲間と探究していく。</p> <p>○同じ問いをもつ仲間と「加納のまち」プロジェクトを計画・提案をしていく。</p> <p>○9月以降の「加納のまち」プロジェクトに向けて、調べる視点を設けて、夏休み中に自分のまちの実態を探ることができるよう、準備を行う。</p>					<p>主体的に情報を収集し、実行する</p>					<p>○同じ問いをもつ仲間と「加納のまち」プロジェクトを計画・提案していく。</p> <p>○「加納のまち」を「住みやすいまち」にしたいために、どうすればいいのかをグループで考える。(夏休み中の観察活動も踏まえて)</p> <p>○願いの実現に向けて、プロジェクトを実行をする。</p> <p>○プロジェクトを実行するとともに、自分たちと似たような活動を行う人たちがいないかを調べ、インタビューを行う。</p> <p>○「加納のまち」プロジェクトの振り返りを行う。</p> <p>○自分の活動が本当にまちの人のためになっているのかを考え、プロジェクトの再計画・再提案を行う。そのために、加納のまちで暮らす人にインタビューに行く。</p> <p>○願いの実現に向けて、プロジェクトを再実行する。</p> <p>○再実行したプロジェクトを振り返り、より加納のまちを「住みやすいまち」にしたいために、自分が加納のまちづくりに参画できることを見だし、仲間とプロジェクトを再計画し、提案する。</p>					<p>○仲間とプロジェクトを再計画し、提案する。</p> <p>○加納のまちの人や岐阜市の人自分たちと同じようなプロジェクトをやっていないのかを考え、もっと、加納のまちや岐阜市で暮らしている人と触れ合い、一緒に活動できることを計画していく。</p> <p>○地域の方とコラボレーション活動を計画、実行する。</p> <p>○これまでのプロジェクトを振り返り、自分の将来を見つめる。</p> <p>○これからの自分の歩む道について、学年の仲間、II部の仲間に向けて発信する。</p> <p>○今年度の学びを振り返り、○をキャリアパスポートに記入する。</p>	
想定されるエラー(■) ジレンマ(●) 【道徳的諸価値】	<p>■加納のまちを自分が考える「住みやすいまち」にするために、何をしたらいいのか分からない。</p> <p>●「住みやすい」=「便利」なのか。</p> <p>●自分が住みたいまちと「住みやすい」まちは違う。</p> <p>【自主自律・思いやり・社会貢献・地域愛・自然愛護など】</p>										<p>■仲間とうまく活動することができない。</p> <p>■人のためになると思っていたことが、まちの人にとってはそうではなかった。どうすればいいだろうか。</p> <p>■計画したことがうまくいかない、どうすればいいのだろうか。</p> <p>■プロジェクトの成果をどのように確かめればいいのだろうか。</p> <p>●プロジェクトは本当に人の幸せにつながっているのだろうか。</p> <p>【相互理解、寛容・自主自律・親切・思いやり・社会貢献・地域愛など】</p>					<p>■自分たちと同じようなプロジェクトを考えている人が加納のまちにいないから、自分たちはどんな活動ができそうなのか、インタビューなどしてより自分も加納で暮らす人も幸せになれるようなプロジェクトをもう一度考え直さないといけない。</p> <p>■計画したことがうまくいかない、どうすればいいのだろうか。</p> <p>【努力と強い意志・友情・自然愛護など】</p>	
人材活用施設	<p>・加納のまちの商店街の人</p> <p>・加納地域で暮らす人々</p> <p>・中山道加納宿まちづくり交流センターで働く人</p>										<p>・自分の親</p> <p>・加納のまちで暮らす地域の人</p> <p>・町内会長</p> <p>・まちのために働く人</p> <p>・市役所の人</p>					<p>・加納のまちで暮らす地域の人々</p> <p>・町内会長</p> <p>・まちのために働く人</p> <p>・市役所の人</p> <p>・学年のなかま ・II部(7年生・5年生)</p> <p>・これまでお世話になった人</p>	
教科等との関連	<p>・社会：日本国憲法 国の政治 願いを実現する政治</p> <p>・理科：生き物のくらしと環境 電気と私たちのくらし 地球に生きる</p> <p>・国語：聞いて、考えを深めよう 話の内容を捉えて、自分の考えをまとめる。</p>					<p>・理科：物の燃えかたと空気 てこのしくみとはたらき 実験してデータを集める、データを表やグラフに表して、得られた事実から考察をする。</p> <p>・社会：わたしたちの生活と政治 多角的に考えることで、社会に生きる多様な人たちのことを踏まえながらよい方法、方策を選択する。</p> <p>・算数：データの活用 データを適切に活用する。</p> <p>・国語：調べた情報の使い方 調べた情報を適切に用いる。</p>					<p>・国語：メディア社会 社会とのつながりについて話し合う。</p> <p>・国語：海の命 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合う活動をスピーチにつなげる。</p>						

単元名	本単元の目標		
	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
「住みやすいまちに向けたプロジェクトを計画・提案・実行しよう」 (45)	加納のまちやそこに住む人との関わりを通して生まれた問いをもとに、自分や仲間、そこで暮らす人、それぞれの「住みやすいまち」を考え、プロジェクトを実行していく中で様々なギャップと向き合い、試行錯誤を繰り返しながら、主体的に問題解決をすることができるようにする。	「住みやすいまち」に向けたプロジェクトを計画・提案・実行することを通して、自分の考えと仲間や加納のまちの人の考えとを比較し、共感的に受け止め、願いの実現に向けて、よりよい考えを生み出すことができるようにする。	実社会に生きる人の生き方を自分なりに考えたり、願いの実現に向けて行動したりすることを通して、他者に貢献することのよさや自分の成長を実感しようとする態度を養う。

活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> 加納のまちを住みやすいまちにしたいという願いのもと、まち探検をしていく中で、自分の理想と現実との相違を見出し、「加納のまち」プロジェクトを計画する。(5) 	<ul style="list-style-type: none"> 願いの実現に向けて、プロジェクトを実行する。 自分たちと似たような活動を行う地域の人がないかを調べる。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> 加納のまちプロジェクトを振り返る。 自分たちの活動が本当にまちの人のためになっているかインタビューをする。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> インタビューの結果を交流し、プロジェクトの再計画・再提案を行う。 プロジェクトを再実行する。(15) 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトを振り返り、より加納のまちを「住みやすいまち」にしていくために、自分が参画できることを見出し、仲間とプロジェクトを計画し、提案する。(5)
加筆修正欄					
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶を広めるためのポスターを作りたい。 ごみを拾いたい。そして、ごみを捨てないようなポスターを作りたい。 まちの魅力を探して、アピールする方法を考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトが上手く進んでよかった。 同じようなことをしている人はいないかな。調べたりインタビューをしたりしてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトをやってみただけ、変化がなかった。 上手くいったと思ったのに、全然違いがない。 まちの人はどう思っているかを聞きにいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> まちの人の思いをもっと聞いて、寄り添ったプロジェクトを考えたい。 まちの人と一緒に活動を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> もっと、加納のまちで暮らしている人と触れ合い、一緒に活動をしていく中で、「住みやすいまち」について考えていきたい。そのためには、自分たちの活動と加納の方が行っている活動をコラボレーションできないかな。
実際の姿					
エラー・ジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクトを計画するときに、仲間と考えが異なり、うまく進められない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ごみを自主的に拾う価値と法律や規則に基づかなければごみを拾えない価値で葛藤する。 ■ 自分が加納のまちのためにしたことが、加納のまちに住む人が願っていることとのずれに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● あいさつをするときに、たくさんの人にと名前を覚えたり好みを聞いたりして仲を深めることどちらを優先すべきかで葛藤する。 ● 少し不便だけど昔から続くものを守る価値観と知名度をあげるために新しいものをつくる価値観で葛藤する。 		

(1) 目標

「住みやすいまち」に対する自分の考えと仲間や加納のまちの人の考えとを比較し、自分と加納のまちで暮らす人々の願いの実現に向けて、よりよい考えを生み出すことができる。(関係構築力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

互いの考えの相違を明らかにし、それぞれのよさを踏まえて、プロジェクトを再構築する。

本時 (26/45)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童の発言)	教師の手立てと見届け
<p>1 加納のまちに住む人へのインタビュー内容を交流する。 ○あなたたちのプロジェクトについて、加納のまちの人はどう感じていたのか。 ・ポスターを作るのは素敵だけれど、それよりも一人一人がごみが落ちていたら拾うまちにできたらいいと言われました。 ・あいさつをたくさんするのが嬉しい人もいるけれど、知らない人からあいさつされるのが好きではない人もいるから、少しずつ地域の人と関わりを深めていくことが大切ではないかなと言われました。</p> <p>2 インタビュー内容から自分たちの活動を振り返る。 ○加納に住む人の意見を聞いて、あなたはどう思いましたか。 ・ポスターとただけではなくて、もっとまちに住む人の願いに近付けることが大切だと思った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>加納のまちの人と自分たちの願いが実現できるプロジェクトを考えよう。</p></div> <p>3 グループでプロジェクトの再構築を行う。 ○加納のまちの人の願いを聞いてこれからあなたたちはどんなプロジェクトを行いますか。 ・探検をしてみてもごみの量はあまり多く無いと感じたが、ごみが落ちていたら拾うまちにしていくために私たちが「ゴミが落ちているから拾わなきゃ。」という気持ちで、何かまちの人と一緒にできるイベントができないかな。 ・あいさつは、実際に歩道橋の傍に立って相手の目を見て、いろいろな人にあいさつができればいいと思う。そうすれば加納のまちの人が言っていたコミュニケーションあふれる加納のまちにつながるのではないかな。</p> <p>4 全体で再構築したプロジェクトを全体で対話をする。 ○～グループのプロジェクトについて、どう思いますか。 ・ごみを減らすために何かイベントができないかと言っていたけれど、加納のまちの全員にやってもらうのは難しいと思います。 ○難しいならどうすればいいと思う。 ・まずは全校の仲間に広めたい。各教室に登下校中にごみを拾えるように呼びかけをするのはどうかな。</p> <p>5 今日の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>ぼくたちの環境プロジェクトは、ごみを拾ったり、ポスターを作ったりしてきたけれど、加納のまちの人はそれを願っているのではなく、加納のまちに暮らす一人一人の環境への意識を高めてほしいという願いだったので、自分たちがごみを拾う様子を加納のまちの人に見てもらったり、一緒に拾う時間を決めて参加を呼びかけてみたいと思います。</p></div>	<p>○前時までに加納のまちの人たちに、自分たちのプロジェクトの内容とその感想をインタビューする。その上で、自分たちのプロジェクトの成果を伝え、さらにどうしていけば自分たちのプロジェクトがうまくいくのかを聞いておく。</p> <p>○インタビューの内容を全体で振り返る活動を通して、加納のまちに住む人々の住みやすいまちの考え方に触れたり、自分の願いにも当てはまる考え方を見付けたりする。</p> <p>○プロジェクトの振り返りやアンケート結果から、これからどんなプロジェクトをどう実行したらよいか、グループで意見を出し合う。</p> <p>○これまで取り組んできたプロジェクトを多面的・多角的に捉え、新しく考えたプロジェクトにはどんな価値があるのか、プロジェクトを行うことでどんなメリットがあるのかグループ交流、全体交流の場で問いかける。</p> <p>○グループだけでなく、学級全体でも交流し、広くプロジェクトについて考えるようにする。そこから、加納の人々の願いや自分たちの願いにも生かせる考え方を、仲間との対話から受容し、プロジェクトの質を高められるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>目標に迫った姿をどのように見届けるか 自分と加納のまちで暮らす人々の願いの実現に向けて、よりよい考えを生み出している。(関係構築力) ・グループ交流においてプロジェクトを再検討しようと、積極的に仲間と意見を出し合いながら、共感的に受け止め、よりよい考えを生み出すことができる姿を机間を巡回しながら見届ける。</p></div>